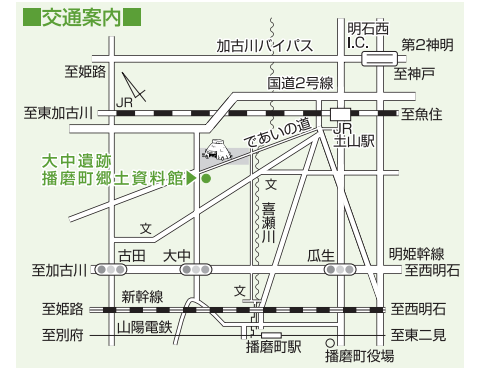


—播磨町郷土資料館開館20周年記念 特別展—

# 心に生きる別府鉄道

今年、郷土資料館が開館して20年目を迎えます。開館して最初の特別展のテーマが「別府鉄道」だったこともあり、20年という節目の年を迎えるにあたり、『初心に戻る』という意味も込めて同じテーマを掲げて特別展を開催します。

**期 間:** 9月10日(土)~11月6日(日)  
**場 所:** 播磨町郷土資料館 **入 場:** 無料  
**休館日:** 月曜日、第4日曜日および祝日の翌日  
**主 催:** 播磨町郷土資料館  
**時 間:** 午前10時~午後5時 (9月中は午後6時まで)  
**問い合わせ:** 播磨町郷土資料館 ☎0794(35)5000



## 誕生

今から約90年前、加古川市別府町にある多木化学(株)が母体となり、自社製品を全国へ輸送する手段として別府鉄道を誕生させました。  
 現在、播磨町にはJRと山陽電鉄の2本の鉄道が走っていますが、20年前までは別府鉄道を含めた3本の鉄道が活躍していました。  
 そのころの播磨町の風景や、地域周辺の様子などを交えながら、別府鉄道の軌跡をご案内します。

## 廃線まで

別府鉄道で自社発注した車輛は少なく、そのほとんどが他の鉄道会社から譲り受けたものでした。新型の車輛が開発され次々と活躍していく中で、どこか懐かしい貴重な車輛が走っている別府鉄道は、全国の鉄道ファンから愛され支持されていました。

また、別府港は、昭和30年代まで砂浜が広がっており、潮干狩りや海水浴などで広く親しまれていました。春から夏にかけての別府鉄道はそれらのレジャーを目的とした観光客で、超満員となり、臨時列車も出ていたそうです。  
 しかし、その別府鉄道もモーターゼーションの波には逆らえず、いよいよ終わりを迎えるときがやってきます。

運行最終日の昭和59年1月31日は、各地で記録的な大雪を観測した日で、多くの方々に惜しまれながらの廃線となりました。  
 ※モーターゼーション…自動車普及して生活必需品となる現象のこと。

## その後

皆さんもよくご存じの通り、別府鉄道の軌道跡は、播磨町では「であいのみち」、加古川市では「松風こみち」として新しく生まれ変わっています。

また、車輛についても、町内外を含め合計6つの車輛が現在もなお保存、展示されています。それらに関連する物も展示する予定です。

廃線から20年経ち、当時の様相もすっかり変わってしまいました。その中で、心の中に今も生き続けている、そしてこれからも語り継がれていく別府鉄道の姿を、現在の視点とらえてご紹介していきます。  
 ぜひ、お立ち寄りください。



▲緑道「であいのみち」入口



▲キハ101型車輛



▲DD1351型機関車



▲土山駅と蒸気機関車